

パレスチナのイスラエル人「入植地」は観光地じゃない！



私は、トリップアドバイザーの最高経営責任者に対して、入植地の観光情報の掲載・宣伝を自社サイトから削除するよう、要請します。



©AFP/Getty Images

イスラエルがパレスチナを占領してから 50 余年。イスラエル政府は、国際法違反という非難をよそに、自国民をこの占領地に移住させる政策を推し進めています。「入植地」の建設はパレスチナ住民の家を壊し、農地や水源を奪って進められてきました。さらには奪った土地を観光資源にもしています。観光産業で恩恵を受けるのは入植したイスラエル人——そして、旅行業界です。

※集まった署名は、アムネスティ日本でとりまとめ、全世界から集まった署名とともに、ロンドンにあるアムネスティ・インターナショナル国際事務局を介して、要請先に提出します。Email アドレス・電話番号は提出しません。

※後日、メール、お電話にてアムネスティ日本から活動紹介のご連絡を差し上げる場合がございます。

旅行口コミサイトのトリップアドバイザーは、入植地にある 70 カ所以上の観光名所を自社の旅行サイトに掲載しています。パレスチナ人に対する人権侵害の上に成り立つ入植地を宣伝することで、利益を上げているのです。また、入植地を観光名所として紹介することは、違法な入植にお墨付きを与えるようなものです。人権侵害に加担しているというそしりは免れません。

	氏名	フリガナ	Email アドレス アムネスティ日本からメールマガジンをお送りします	電話番号	年代	会員/ HRS
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						